

## 取組個票①5年間の取組全体概要

①取組名	取組09	ヘルシー&交流タウンの形成
②対応する目標・課題	地域の福祉・介護	
③対応する評価指標・目標値	■評価指標：健康な高齢者の割合	■目標値：82.7%(H17年度)⇒80%以上(H28年度)
	■評価指標：介護保険在宅サービスを利用する高齢者の割合	■目標値：59.5%(H22年度)⇒65.0%(H28年度)
④取組内容 急速に進む、少子高齢化の現状を踏まえ、高齢者が安心・安全に歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを実現するため、中心市街地において高齢者等の健康増進に役立つヘルシー&交流タウンを構築する。 (1)安全・安心・快適な歩行者ネットワークの形成 総合的な介護予防プログラムを提供する角川介護予防センターをはじめとした介護施設や医療施設、商業施設のほか、オープンスペースを活用し、ソーシャルキャピタルを育み、交流の場となる休憩設備の設置・飲食店等の誘致を行うとともに、その動線に歩行者専用道路の整備を行い、安全・安心・快適な歩行者ネットワークを形成する。 (2)歩行支援ツールを用いた歩行支援の仕組みづくり 転倒など歩行時の高齢者の不安を解消するため、(1)の安全・安心・快適な歩行者ネットワークの形成に加えて、補助車等の歩行支援ツールを気軽に利用できる仕組みづくりを行う。検討にあたっては、歩行支援を研究している大学の研究室や都心部に立地する高齢者施設、地域の自治会など、多様な関係者との協働により取組む。 (3)高齢者の外出・交流機会の充実 中心市街地において、高齢者の生きがいづくりや、市民活動団体等の活動の場を確保することにより、世代間交流や高齢者の外出・交流機会の充実を図る。活動の場としては、既存の公共施設の有効活用のほか、商業施設等の民間施設の一部を活動の場として提供してもらうなど、公民連携の仕組みづくりを行う。 (4)富山型デイサービスの立地誘導 現在、富山型デイサービスの施設は、地価が高いこともあって、高齢化が顕著な中心市街地の既存市街地では、施設立地が少ない状況にあるため、中心市街地で富山型デイサービスの新規立地が促進されるような支援制度を整備する。		
⑤エリア 中心市街地		
⑥主体 民間事業者、大学等学術研究機関、自治会、富山市		
⑦活用した国等の制度 (2)戦略的創造研究推進事業(科学技術振興機構)<H23～26年度>		
⑧地域の関与 【実績】・H24富山型デイサービス新規立地に対する富山市の支援等 ・H24富山型デイサービス新規立地に対する富山県の支援等		
⑨スケジュール		
23年度	(1)歩行者ネットワークの調査検討 (2)歩行支援ツールを用いた歩行支援の仕組みの調査・研究	
24年度	(1)歩行者ネットワークの調査検討 (2)歩行支援ツールを用いた歩行支援の仕組みの調査・研究 (3)高齢者の外出・交流機会の充実のための事業を調査検討 (4)富山型デイサービスの立地誘導、立地支援	
25年度	(1)歩行者ネットワークの調査検討 (2)歩行支援ツールを用いた歩行支援の仕組みの調査・研究 (3)高齢者の外出・交流機会の充実のための事業を調査検討 (4)富山型デイサービスの立地誘導、立地支援	
26年度	(1)ヘルシー&交流タウンの詳細設計 (2)歩行支援ツールを用いた歩行支援の仕組み運用構築 (3)高齢者の外出・交流機会の充実のための事業実施 (4)富山型デイサービスの立地誘導、立地支援	
27年度	(1)オープンスペースへの休憩施設の設置 (2)歩行支援ツールを用いた歩行支援の仕組み運用 (3)高齢者の外出・交流機会の充実のための事業実施 (4)富山型デイサービスの立地誘導、立地支援	
28年度	(1)歩行者専用道路の詳細設計、整備 (2)歩行支援ツールを用いた歩行支援の仕組み運用 (3)高齢者の外出・交流機会の充実のための事業実施 (4)富山型デイサービスの立地誘導、立地支援	
29年度以降	(1)歩行者専用道路の詳細設計、整備 (2)歩行支援ツールを用いた歩行支援の仕組み運用、改善 (3)実施 (4)富山型デイサービスの立地誘導、立地支援	
⑩他の取組との連携 取組名：交通空間の利活用交流推進 連携内容：ヘルシー&交流タウンの形成にあたっては、安全・快適な歩行者ネットワークの形成と合わせて高齢者が歩いてみたくなるソフトな仕掛け・演出が必要のため、交通空間の利活用交流推進と連携して取組む。 取組名：高齢者、障害者等に配慮した路面電車施設の整備・LRTネットワークの形成 連携内容：ヘルシー&交流タウンの形成にあたっては、高齢者が使いやすい、中心市街地へのアクセス手段の充実が必要であり、高齢者、障害者等に配慮した路面電車施設の整備と連携して取組む。 取組名：呉羽丘陵での「人と自然との共生&再生可能エネルギー」フィールドミュージアム形成 連携内容：中心市街地で実施する都市的健康・福祉のまちづくりと、呉羽丘陵で取組む健康・福祉の森づくりを連携することにより、高齢者にとって健康維持や回復の基本となる外出(歩行)の機会の充実を図る。		
⑪自立・自律の方針・目標 ●歩行を基本とした健康の維持・増進による医療・介護費用の抑制 歩行は、健康の維持・増進の基本であることから、公共交通の活性化に加えて、高齢者が「歩いて暮らせる」、「自然と歩いている」、「歩きたくなる」まちづくりを展開することで、医療費や介護費用の抑制を目指す。 ●富山型デイサービスの普及促進 現在、富山型デイサービスの施設は、地価が高いこともあって、高齢化が顕著な中心市街地の既存市街地では、施設立地が少ない状況にあることから、初期投資に対する支援の充実と、高齢者が過ごしやすい都心空間の形成を図ることにより、富山型デイサービスの普及拡大を目指す。		